ヘリコプターから消毒剤の
空中散布（南区笠寺付近）
昭和 34 年 10 月 11 日

そ 空からの薬剤撒いて消毒だ

浸水した地域では、海水や汚れた水が溜まっており、衛生状態がとても悪くなっていました。そのため、自衛隊のヘリコプターが DDT などの殺虫剤を撒くなどして、町中の消毒作業が行われました。住民たちは事前の通達に従ってタオルや帽子をかぶりマスクを付けて、その様子を見ていたそうです。

体験談

小学校で、先生から朝礼後に長髪の者は残る様に言われた。そして下を向いて耳穴を手で防げとの指示があり、頭に DDT が噴射された。シラミが湧くのを防ぐためだったそうだが、お互い真っ白になった頭を見つめて大笑いした思い出がある。（南区六条町、14 歳、男性）

臨時避難所となった小学校での
炊き出し風景
（昭和区御器所小学校）
昭和 34 年 10 月 9 日

た 炊き出しでおにぎり作る女性陣

婦人会や日赤奉仕団、自治会など地域の人々による炊き出しは、台風襲来の翌日 27 日から被害の比較的少なかった地域を主として精力的に行われました。今のようにプラスチックのパッケージなど無い時代ですので、新聞紙や笹、わらなどにくるまれて被災者の元へ運ばれていったそうです。

体験談

南区豊田に住み、9時30分頃から急な強風と水。人間は2階の屋根へ逃げて一晩を家族で生きました。明朝は良い天気、ヘリからワラに包まれた大きなおにぎりが降りてきて頂き、美味しかったです。（南区、19 歳、女性）

自衛隊トラックに積込む救援物資
（南区内田橋付近）日付不明

ち 地方から救援物資が続々と

写真に写っているトラックは、自衛隊のものです。「鯖みそ煮」と書かれているので中身は缶詰でしょうか。
段ボールが次々に積み込まれています。

臨時避難小学校で学ぶ被災地
の小学生（南区呼続小学校）
昭和 34 年 10 月 9 日

つ 辛いけど疎開生活した児童

被害が大きかった地域では、被害が少なかった地域への大規模な疎開が行われました。
疎開先の学校には児童・生徒があふれ、授業を 2 部行うなど工夫をしてなんとか対応していたようです。

体験談

ヘリコプターで疎開しましたが、どこへ連れて行かれるのかとても不安でした。尾西市の体育館にて三ヶ月余りの集団疎開で、両親等の面会が楽しみでした。（十四山村（現・弥富市）、10 歳、女性）

一面に浸水した駅
（南区 名鉄常滑線 道徳駅）
昭和 34 年 10 月 4 日

て 電車より筏行き交う駅舎かな

写真は、名鉄常滑線の道徳駅です。駅のホームが、筏やボートの臨時船着き場として利用されていた様子がわかります。
なお現在の道徳駅は高架駅となっており、当時の面影はありません。

体験談

昔から道徳地区は海抜ゼロメートル地区なので危険だと言われていましたが、台風は鈴鹿山脈にぶつかって曲がっていくため大丈夫という迷信もありました。まさか伊勢湾から突入して来るとは誰しも予想していませんでした。
（南区六条町、14 歳、男性）

借り上げトラックで避難する
り災者（南区名鉄大江駅南付近）
昭和 34 年 9 月 29 日

と トラックで避難する人帰る人

台風直後は、電車などの交通網は寸断されていたため、名古屋市は私営の観光バスや愛知県トラック協会から借り上げるなどして車両の不足を補いながら、人員や物資の輸送を行いました。また、有志の人々による輸送も行われていたそうです。

体験談

当時私が住む学区では銭湯が 6 軒もありました。この界隈は多くの労働者が集まる住宅地区だったため、風呂のない借家やアパートがひしめいていたからです。働き盛りの労働者が揃っていたため、彼らは復興や支援のために連日精力的に動いてくれました。（南区六条町、14 歳、男性）

僕たちも清掃作業に一役
（南区千鳥小学校）
昭和 34 年 11 月 4 日

な 長靴を履いた生活もう慣れた

浸水した地域では、海水が引いた後も道路にはヘドロや水溜まりが残されており、
しばらくの間長靴は手離せませんでした。
また、当時の道路は未舗装だったため台風後は粘土質のぬかるんだ道となり、
足を取られるため歩くのも一苦労だったそうです。

浸水した家屋より家財を運び
出す住民（港区魁町付近）
昭和 34 年 10 月 5 日

に 二階建て出入りするのは好都合

当時はまだ、二階建ての家は珍しい時代でした。伊勢湾台風の際には二階建ての家に近所の人や親戚が大勢集まってきて避難し、皆で一夜を明かしたという体験談が多く残されています。

体験談

近所で一件だけ 2 階建ての家があったので、近所の人たちはその家の 2 階へ避難した。少ししておにぎりが配られたが、どろ水に浸った米で炊いたので臭かった。少ししか食べられなかった。それで、近所のしょうゆ屋さんが売っていたビン入りの濃縮ジュースを水の中探してくれた。それを水でうすめてくれた。私の大好きだったジュースなので全部飲んだ。数日間経ち、水がひいた頃、自衛隊のヘリコプターが衣服を持ってきてくれた。（蟹江町、4 歳、女性）

庄内川堤防にて
（港区多賀良浦町）日付不明

ぬ 濡れた服濡れた着物を引き揚げる

台風の後は、しばらく湿った空気の日が続き、着るものなどがなかなか乾かなかったそうです。
また、海の水に浸かっていた服はやぶれやすくなっていて、何度も縫って直さないといけませんでした。

体験談

わが家では父が会社から木製の滑車を借り受けて屋根裏の梁に取り付けました。そして、海水の中から濡れた衣類をロープで縛り付け順次引きあげたのです。（南区六条町、14 歳、男性）

集団避難所土古競馬場の或日
（港区土古町）
昭和 34 年 10 月 14 日

ね 寝る場所は解放された競馬場

とても沢山の人が被害にあったので、避難所である小学校や中学校だけでは足りなくなってしまいました。
そのため競馬場やお寺、電車の車両など、色々な場所が避難所として使われました。

（南区白水町）
昭和 34 年 10 月 16 日

の 野放しの流木はやく撤去して

名古屋市南区には、家を建てるためなどに使う丸太が沢山置いてありました。
それが伊勢湾台風の高潮で流れてきて、より多くの人と建物が被害を受けました。

体験談

私が子供の頃は馬車が材木を運んでいました。そして馬車の傍に行くと、馬は眼を輝かせてこちらを見ていました。荷台には電柱ほどの材木が積まれており、風情のある光景でした。そのため近くに貯木場があっても違和感は全くありませんでしたが、まさかあの材木類が凶器になるとは夢にも思いませんでした。（南区六条町、14 歳、男性）

おし寄せる濁流、
避難のため破壊された屋根
(南区白水町)日付不明

は 破壊され逃げ口となる屋根の穴

堤防が決壊し、市街地に海水が押し寄せた時、被災者の多くは天井を破って天井裏に逃げ延びました。
さらに水が上がってくると、屋根裏の一部を破壊して屋根に登ったそうです。

体験談

堤が切れたと外から大きな声、すぐに畳が浮き上がり、父が家族 4 人を押入れに上げた。それでも天井裏のさらに上まで水位が上がり、父が屋根を破って全員が屋根に出て助かった。私は朝まで屋根の上で寝ていた。数日間天井裏での生活だった。家の前の道路には死体が潮の流れに行ったり来たりせていたのを忘れない。その後は親戚の人が来てくれ、津での疎開生活をしばらく送った。（南区六条町、10 歳、男）

たのみの交通手段となった流木いかだ、小舟
（南区道徳通）昭和 34 年 10 月 3 日

ひ 被災して筏で移動し避難所へ

堤防が壊れてしまったので、高潮となって町の中に入ってきた海水はそのまま何週間も引きませんでした。
歩いて行くことは不可能だったため、避難所へ行くためにボートや筏を使わなければならない人が多くいました。

浸水地区をたずねる見舞客
（南区道徳本町）昭和 34 年 10 月 4 日

ふ 不安げに安否気遣う水の中

被災前と後とでは町の景色が大きく変わっており、また当時は現代のように町名が表示された看板も無かったため、被災地を訪れる見舞客は道を聞くなどして確認しながら道を進まなければならなかったそうです。
また、被災地では 1 ヶ月ほど停電していたため、日の暮れないうちに帰宅する必要がありました。

たい積したヘ泥との戦い
（南区柴田本通）昭和 34 年 10 月 15 日

へ ヘドロとの戦い続く長期戦

決壊した堤防の仮締切りが完了し、排水作業が終わりに近づくと、被災者たちはようやく自宅の復旧に取り掛かることができました。1 ヶ月近く水没していた家もあったため、中には大量のヘドロが堆積していたようです。ヘドロには壁土や割れたガラス片等も含まれているため、ヘドロの片付けは危険を伴う作業でした。

体験談

家に堆積していたヘドロは近所の空き地へ排出したのですが、全て運び終わるまでには、両親と私の 3 人で 1 週間ほど掛かりました。（南区六条町、14 歳、男性）